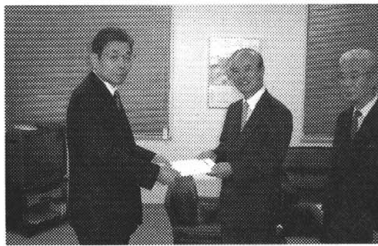


民間活力の活用を

水道O&M研究会 日本協、簡水協に要望

水道O&M研究会（藤田賢二会長）は25日、日本水道協会の赤川正和専務理事や石井健審工務部長、全国簡易水道協議会の宮澤充事務局長に民間活力の一層の活用や第3者委託の拡大、インセンティブ契約の導入などを訴えた。

要望書を受け取った赤川専務理事は「施設更新などを先延ばしにするところも見られる。良いシステムであれば活用を検討すべきだろう」と述べ、宮澤事務局長は「簡水は合理化が求められている。セミナーなどを開き、民間活力の活用の仕方などを説明して欲しい」と応えた。



赤川専務（左）に要望



宮澤局長（中央）に訴える